

提出日：令和 3 年 2 月 24 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 圓尾拓也 職位： 准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

臨床教員として、診療・教育・研究に携わっている。診療を通してこれまでに学んだ知識の活用法を説明するとともに診察に必要な手技を教える役割を担っている。腫瘍の診断、治療とくに放射線治療を専門としており、この分野についての診療をふまえて臨床教育や実習を行っている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
小動物臨床実習（分担）	獣医学科	必	5	140
小動物病院実習（分担）	獣医学科	選	6	30
放射線学実習（分担）	獣医学科	必	4	140
小動物総合臨床（分担）	獣医学科	必	5	140
放射線学講義（分担）	獣医学科	必	2	140

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

思いやりのある臨床獣医師を育成する。

知識に裏打ちされた技術を身につける。

国家試験合格にフォーカスする。

一般に教育とえば知識の伝達に重点が置かれるが、臨床教育は症例やオーナーへの配慮や思いやりを欠くことができない。オーナーにとっては獣医学的にできることが正しいわけではない。価値観、金銭、他の家族の考えなどを尊重し治療を進めなければいけない制限時刻があることも理解する必要がある。

研究室に所属する学生は3年生から、授業の学生は5年生の臨床教育で教えることとなる。5年生はスチューデントドクター資格を保持しているため、症例治療に参加することが可能となる。マンツーマンに近い状況で説明が可能なことからきめ細かく安全に指導することが可能となる。

臨床の課題を見つけ、それを解決する方法を模索する。とくに、麻酔の実施、安全な治療の遂行、腫瘍の緩和治療についての問題解決を試みている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

- ① 思いやりのある臨床獣医師を育成する。
- ② 知識に裏打ちされた技術を身につける。
- ③ 国家試験合格にフォーカスする。

① 思いやりのある臨床獣医師を育成するためには実際の症例を診察しオーナーの話聞き、相手の立場を理解する。ただ、いきなり話を聞くのは不可能であるため、まず診察補助により基礎知識をつけ、十分と考えられた学生にはオーナーに対する予診を行う機会を持つ。

② 知識に裏打ちされた技術を身につける。水辺に連れて行っても水を飲むかどうかは本人次第である。そのため、やみくもに説明してもただ時間が過ぎるだけである。そこで、発問し考えてもらいたいと思う。未熟であっても、考えて答えを答えることで、理解度の低さを気づかせ、自発的な学習態度につなげたい。

授業により十分な知識がついているが、実際の治療の時に使えるように訓練している。例えば、心電図のことは十分に理解しているが、実際の心電モニターをするにあたってどのように電極をつけるか、どのように評価するかを質問する。これにより知識を知恵に変える。

また、ともに考え、対応を探る。体験することを重要視している。実践することが特徴と考えている。褒めることを心がけ、傷つけない（人権に配慮する）。

③ 国家試験合格にフォーカスする。このため、ふだんから国家試験にフォーカスした質問をするとともに過去問の回答を推奨する。また、卒業研究を5年生までに終わらせ6年生になったら国家試験に打ち込めるように心がけている。

アクティブラーニングについての取組

宿題を出す。

ICTの教育への活用

動画を活用する程度。できれば反転授業につなげたい。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業、実習）の創意工夫（A～C）

②学生の理解度の把握（A～C）

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）

⑤双方向授業への工夫（A～C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①C: 動画の活用や反転授業をしたい。

②C: 直接質問する、アンケートを取る、ルーブリックを活用するなどの対策を考えたい。

③C: 質問し理解しているか確認し、実力を理解してもらおう。

④C: レポート

⑤C: 改善については今後の課題と考えている。学生の教育効果を保ちつつ、症例の安全に配慮するという時には相反することも両立しなければならない。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

毎週のゼミで国家試験の過去問を出題し、意識づけをおこなっている。また、ふだんから国家試験を意識した質問を行い、知識の定着に努めている。また、卒論のデータ収集は5年生のうちに終わらせ、6年生からは国家試験に専念できるように心がけている。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

② ①の結果はどうでしたか。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

①診察に追われて事前の説明ができなかったので診察時間を遅らせた。

②説明することはできたが、診察開始が遅くなり飼い主に迷惑をかける欠点があった。

③前日の予習を推奨するとともに効率的な方法を考えたい。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

ルーブリックによる自己評価の確立。

<p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 卒業研究を早く終わらすことができている。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p>
<p>8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン) 教えることをシステム化するとともに学生が実施可能な実技を増やしたい。 学生との間を繋ぐ若い人材を確保したい。</p>
<p>9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ シラバス</p>